

アレンジしてそのまま使えるアクションカードの使いかた

東京都立広尾病院 救命救急センター 中島 康

はじめに

今回ご紹介するアクションカードのひな形は、著者が2004年より東京都立広尾病院において試用を開始し、毎年2回の消防訓練および年1回の総合防災訓練などの使用経験から改善を繰り返してきたものを基本にして、その中からエッセンスを抽出して、特別にデザインしたものです。皆さんの施設で使用するためには、ご自身で手間をかける必要があります。また、このアクションカードの運用についても独特のルールがあるのでご理解の上お使いください。

そして何よりも大切なことは、「動ける」アクションカードにするには、ご自身の施設に合わせた導入と改善が必要となることです。最初の導入にかかる労力を、改善する労力へと変えるお手伝いになれば幸いです。

作成上の注意

- ①施設の消防本部や災害対策本部が置かれる【場所】と（内線番号）を調べてください。また、〈担当者〉についても調べてください。災害対策本部の設置基準も調べ、下記の表の空欄を埋めてください。
- ②アクションカードの空欄を①で調べた【場所】（内線番号）〈担当者〉を参照しながら埋めてください。

調査対象	例	【場所】	（内線番号）	〈担当者〉
施設の防災担当部署	防災センター	【A_____】	(a_____)	〈あ_____〉
病棟の一時避難場所	エレベーターホール	【B_____】		
自衛消防本部	防災センター	【C_____】	(c_____)	
緊急コール	コードブルー	【D_____】	(d_____)	
災害対策本部	大会議室	【E_____】	(e_____)	
時間外の看護責任者	管理看護師長		(f_____)	〈か_____〉
時間外の情報集約場所	救急外来	【G_____】	(g_____)	
救急診療の調整	救急外来受付	【H_____】	(h_____)	
守衛室	守衛室	【I_____】	(i_____)	〈け_____〉

調査対象	例	基 準
災害対策本部の設置基準	地震	震度が α _____の場合
	集団災害	受け入れ予想人数が β _____の場合

運用上のルール

- ①アクションカードを持った人は、カードに記載されている活動を進めるリーダーとして指示出しに専念します。できる限り別のスタッフや応援者が活動するように、カードの指示を記載されている順番に1つずつ与え、活動したら報告に戻ってきてもらい、次の指示をしていくようにします。
- ②時間外勤務帯などの人数が少ない場合には、自分で活動を行わなくてはなりませんが、通常勤務帯などで最初から人数が多い時や応援者が到着して人数が増えた場合には、一つのアクションカードに記載されている複数の指示を複数の人で同時に進めることにより、対応の速度を早めることができます。
- ③アクションカードのすべての指示が遂行される頃には、心に余裕が生まれていることでしょう。その後は、皆さんが良いと考えることをプロフェッショナルとして行えば、適切な災害対応ができると思います。